

国際物流の取組について

平成31年2月15日

北陸信越運輸局 交通政策部

小椋 康裕

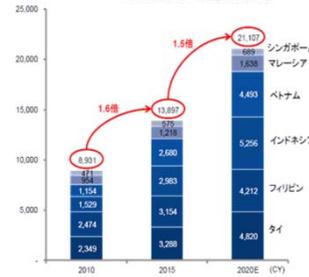
総合物流施策大綱(2017年度~2020年度)に掲げられた「強い物流」を構築するため、物流の生産性向上に向けて示された視点(①繋がる、②見える、③支える、④備える、⑤革命的に変化する、⑥育てる)を踏まえ、新技術の活用に関する調査研究や高度物流人材の育成のための調査を含め、多様な施策に取り組む。

1. <繋がる>サプライチェーン全体の効率化・付加価値の創造

(1) 連携・協働による物流の効率化・低炭素化

- <補助金>
- ◆鉄道・海上輸送への転換等に係る**計画の策定支援・運行支援**〔37百万円〕
- <調査>
- ◆物流の生産性向上の推進〔17百万円の内数〕
(**諸外国における新技術等の活用状況**及び日本への導入に際しての課題等の調査)

■ビール業界では共同輸送が普及



■ASEANで拡大する冷凍冷蔵食品市場

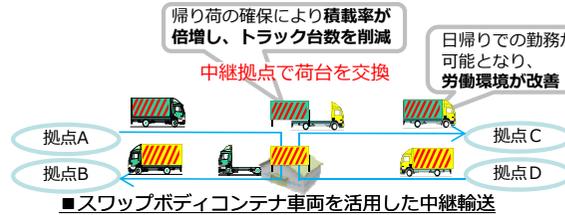
(2) アジアを中心とした物流のシームレス化・高付加価値化

- <調査>
- ◆国際物流のシームレス化の推進〔17百万円の内数〕
(**日中韓物流大臣会合**に基づく取組の推進)
 - ◆物流産業の海外展開の促進・先駆的取組の支援〔1,697百万円の内数〕
(**海外進出障壁に係る調査、政策対話、物流パイロット事業の実施**)
 - ◆物流システムの国際標準化の推進(**日本型コールドチェーンの構築支援**)〔17百万円の内数〕〔1,697百万円の内数〕

- <補助金>
- ◆**手ぶら観光カウンター**の整備・機能強化の支援〔5,474百万円の内数〕

2. <見える>物流の効率化を通じた働き方改革の実現

- <補助金>
- ◆**スワップボディコンテナ車両**の導入支援〔1,045百万円の内数〕
 - ◆**バス予約調整システム**の導入支援〔1,045百万円の内数〕
 - ◆**オープン型宅配ボックス等を活用した再配達削減**〔1,045百万円の内数〕



3. <支える>インフラの機能強化による物流の効率化

- <補助金>
- ◆**連結トラック**の導入支援〔1,045百万円の内数〕
 - ◆高品質低炭素型の**鮮度保持コンテナ**等の導入支援〔1,045百万円の内数〕

■連結トラック



■鉄道用鮮度保持コンテナ

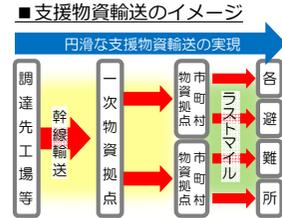


- <参考>
- ◆**物流総合効率化法の認定計画と連携したスポット的なインフラ整備事業に対する重点配分(社会資本整備総合交付金(広域連携事業)と連携)**

4. <備える>災害リスク・地球環境問題への対応

(1) 災害リスクに備える

- <調査>
- ◆**ラストマイル**を含む円滑な支援物資輸送体制の構築〔13百万円〕



(2) 地球環境問題に備える

- <補助金>
- ◆冷凍冷蔵倉庫への**省エネ型自然冷媒機器**の導入支援〔7,500百万円の内数〕

5. <革命的に変化する>新技術の活用による”物流革命”

- <研究開発>
- ◆農林水産物・食品の輸出拡大に向けた取組の推進〔135百万円の内数〕
(**新型航空保冷コンテナ**の研究開発)

- <参考>
- ◆**戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)**「スマート物流サービス」**物流・商流データプラットフォーム**の構築等〔280億円の内数〕



6. <育てる>人材の確保・育成

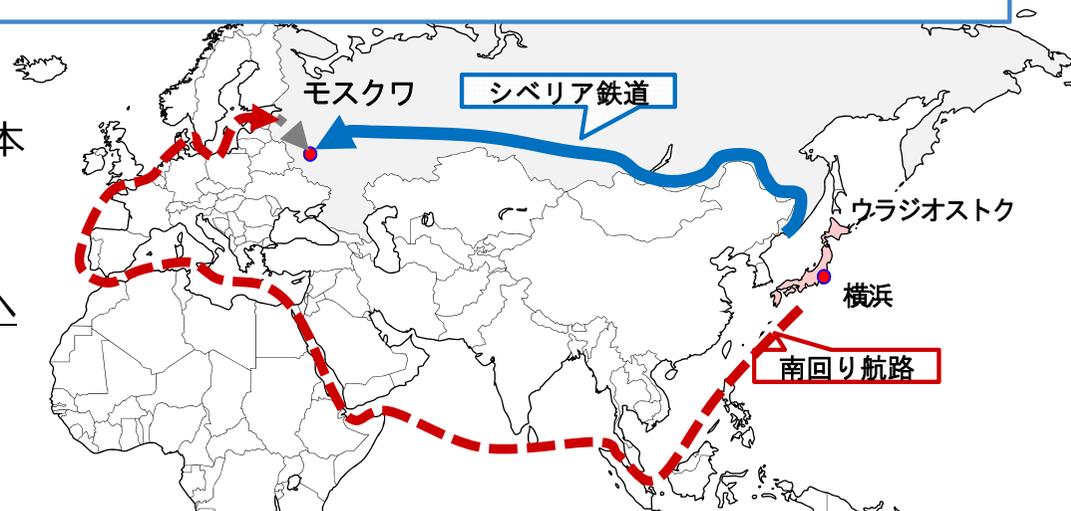
- <調査>
- ◎**物流分野における高度人材の確保・育成**に向けた調査〔新規〕〔11百万円〕

シベリア鉄道の利用促進について

- 国土交通省では、ロシア鉄道と協力し、海上輸送、航空輸送に続く第3の輸送手段の選択肢としてのシベリア鉄道の利用促進に向けて取組を実施しているところ。
- シベリア鉄道を利用した貨物輸送については、最近は輸送力増強や輸送時間の短縮等の改善がなされているものの、さらに利用を促進するために克服すべき課題について、継続して議論を進める必要。

□ これまでの取組

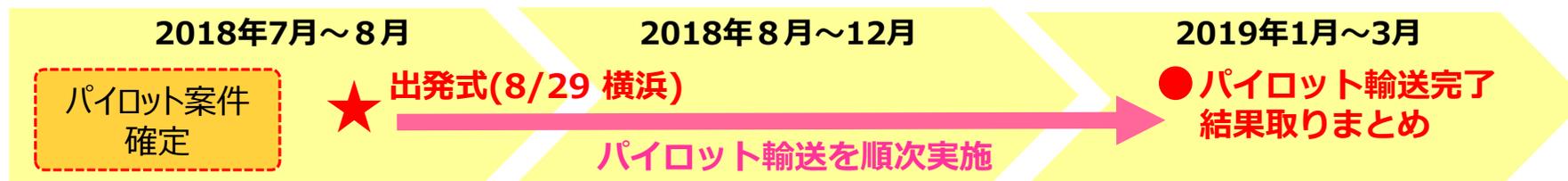
- ✓ 2017年8月：第4回日露運輸作業部会等にて、日本からロシア側に対し、税関手続きの改善や日本企業向け問い合わせ窓口の設置等を要望
- ✓ 2017年10月：ロシア側が日本企業向けワンストップヘルプデスクを設置
- ✓ 2017年12月～2018年1月：横浜からモスクワまで実際に貨物を運び、税関手続等の現場での運用等を確認
- ✓ 2018年4月：第5回日露運輸作業部会において、同年秋にも日露で共同してパイロット輸送を実施することについて合意
- ✓ 2018年5月～6月：パイロット輸送企画を公募・選定



経路	モスクワまでのコスト	モスクワまでの所要日数
シベリア鉄道	4600-6000 USD	20-27日
南回り航路	5500-10000 USD (トラック輸送を含む)	53-62日

(出典) 事業者からのヒアリング・報道等により国土交通省作成。
※季節、経由する港湾等によって大幅に変動がありうる。

▷ 今後のスケジュール



H30年度は、利用促進に向けた課題を現場レベルで検証するとともに、荷主企業等にシベリア鉄道の利用をPRするための実証事業を複数回実施予定。

シベリア鉄道による貨物輸送に関する課題

- ・ 輸送中の振動や温湿度の変化により貨物が損傷
- ・ リードタイムが長く、トータルの輸送時間の予測がつかない
- ・ コスト面で海上輸送に比べ不利（トラック輸送を加味すると有利）
- ・ 極東港湾でのトランジット手続きが煩雑
- ・ ドライコンテナによる食料品輸送の可否確認が煩雑
- ・ 重量物のラッシング（積付け、固縛方法）に関する手続きが不明確



実証事業一覧

	事業者	輸送品目
1	三菱商事ロジスティクス株式会社	日用品
2	東海運株式会社	住宅・ビル建設用資材
★ 3	株式会社東洋トランス	精米
4	株式会社東洋トランス	電子ピアノ、工具、電動工具
5	株式会社 日新	飲料製品
6	日本通運株式会社	雑貨及び食品等
7	日立建機ロジテック株式会社	建設機械部品

★ : 出発式対象案件

出発式の様子

- 8月29日（水）に横浜にて開催。
- 松本物流審議官の開会の辞に始まり、日露側来賓からの祝辞の後、伊藤国際物流課長より事業概要説明を実施。
- 出荷されるコンテナを背景にテープカット及び記念撮影
- 主な参加者
 - 日本 : 国土交通省大臣官房物流審議官、総合政策局国際物流課長、荷主企業、物流事業者他
 - ロシア : ロシア連邦経済発展省次官、ロシア大使館臨時大使、ロシア通商代表部主席代表、ロシア鉄道関連会社他

